

[第 177 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

2026 年 8 月吉日



- ・ 主 催 NPO法人高島藤樹会
- ・ 日 時 2026 年 9 月 12 日 (土) 15時～17 時
(※農作業の都合により、勝手ながら、「第 2 土曜日」に変更いたします)
- ・ 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- ・ テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』(中央公論社)p.273～
- ・ 塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)
- ・ 参加費 無料(予約不要・どなたでも歓迎)

2026 年 8 月 1 日(土)、安曇川公民館で第 176 回「藤樹人間学塾」を開催しました。今回は京都から 1 名、大津から 3 名を含め、10 名(うち女性 3 名)の道友が集まりました。

■ テキスト『中江藤樹・熊澤蕃山』(中公バックス 日本のお名著 11)「集義和書」巻十一 義論の四(儒仏の弁、心学と禅学、雪霜に堪える蕃山学 ほか)を輪読し、解説しました。

■ 今回のポイント

冒頭、私事ですが「どんな経験も将来の役に立つ」お話をしました。7 月に妻が怪我をして自宅静養となり、私が毎日料理を担当することになりましたが、5 年前から「男の料理クラブ」で練習してきた経験が活き、腕がどんどん上がってきています(笑)。

【儒仏の弁(死生観の探求)】蕃山は「仏教の学は死を畏れることを根拠にし、絶えず死を言っている。儒学は死生を昼夜と同様とするから畏れることはない」と述べています。

補足資料として、道元禅師が炎天下で庭掃除をする老僧と交わした「さらになんの時をか待たん(今、ここで尽力する)」の禅の対話と、『易経』の「死生は昼夜のごとし(宇宙の自然な循環)」という儒教の死生観を対比して説明しました。

表現こそ対立して見えますが、到達している境地(実修実証・知行合一)は完全に一致しています。

- ・ 道元(禅): 死を恐れず、今この瞬間の行い(凡事徹底)に命を燃やす。
- ・ 蕃山(儒): 死生を昼夜のごとく受け入れ、目の前の家族や使命に至誠(義)を尽くす。

「死を恐れて怯えるヒマがあるなら、今、目の前にいる家族、目の前の使命に全力を尽くさない」という一点において、東洋思想の両輪(儒・仏)は見事に一つに繋がります。

■ フリートーク(参加者の声)

- ・ 「蕃山の和魂漢才の精神がよく理解できた」
- ・ 「自宅で最期を迎え、家族で看取りをすると、子どもたちは命のことを学べる」
- ・ 「仏教の死生観と儒教の昼夜観が勉強になった。今日の仕事は先送りしない(笑)」
- ・ 「テキストを一人で読んでも理解できなかったが、皆で勉強すると腹に落ちる」 など、活発な意見交換が行われました。

学ぶは愉し!

～人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。

